



河岸段丘 (地図①)
大地の隆起(もり上がる)ことと河川のはたらきによって形成され、たくさんの段丘が狭い範囲で一望できます。また、日本の古い時代の扇状地が段丘面として見ることもできるのも特徴です。



石落し (地図⑭)
見る者を圧倒するこの断崖は、苗場山の溶岩です。この雄大な柱状節理(※1)は、中津川の浸食(削りとること)によってその姿を現しました。

龍ヶ窪(日本名水百選) (地図④)
苗場溶岩の末端には、湧水が点在しています。そのひとつが龍ヶ窪です。周囲を鬱蒼とした森に覆われ神秘的な佇まいのこの池には、数々の龍神伝説が残っています。



穴藤の川原・古型マンモスの臼歯化石出土地 (地図⑬)
穴藤の川原では、古型マンモスの臼歯化石が発見されています。その下層には、年代を知ることができる上越火山灰 (SK030) を見るができます。

逆巻の川原と猿飛橋 (地図⑰)
千体仏像と形容される柱状節理は、日本海ができた始めた頃の海底火山の噴出物です。この少し上流に猿飛橋が架かり、江戸時代の文人鈴木牧之が描いています。



※1 柱状節理とは、溶岩などが堆積するとき、冷えて縮むときにできる割れ目で、断面は六角形が多い。側面は柱状や板状になる。



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。(承認番号 平27情使、第49-GISMAP36268号)

地球規模の気候変動を背景に、水の量と土砂の量の変化による河川のはたらきと大地の隆起によって河岸段丘がつけられました。苗場山麓では、40数万年前からつけられた階段のような段丘を一望することができます。水(川)のはたらきのすごさを実感しながら、その成り立ちを学ぶことができます。

そしてその段丘の上に覆いかぶさる苗場溶岩の流れと川が割った岩壁を見て、その先端部には湧水が点在することを知ります。

「石落し」では、中津川の浸食によって姿を現した堂々たる苗場溶岩の柱状節理を、布岩山では、天にそびえ立つ鳥甲溶岩の柱状節理を目の当りにします。

人間は、およそ3万年前の旧石器時代にこの地を踏みしめました。そして約8,000年前に日本海へ対馬暖流が流れこんだことによる多雪という環境の変化にも適応し、雪国文化を育んできました。

大地の形成と人間の活動が密接な地域 それが 苗場山麓ジオパークです。

苗場山麓ジオパーク 57の見どころ

- ①河岸段丘(マウンテンパーク津南からの眺望)
- ②上野の大杉
- ③今井城跡(新潟県指定史跡)
- ④龍ヶ窪(日本名水百選)
- ⑤沖ノ原遺跡(国指定史跡)
- ⑥外丸矢放神社の八本杉
- ⑦正面ヶ原D遺跡(新潟県最古)
- ⑧船山神社の大櫓
- ⑨堂平遺跡
- ⑩美穂 ローム層の露頭
- ⑪七ツ釜(国指定天然記念物)
- ⑫野々海池のミズバショウ群落
- ⑬山伏山と風穴
- ⑭石落し
- ⑮見玉不動尊と仁王門
- ⑯穴藤の川原・古型マンモスの臼歯化石出土地
- ⑰逆巻の川原と猿飛橋
- ⑱清水川原の屏風岩(大嵩)
- ⑲結東の石垣田
- ⑳結東のシンパ
- ㉑見倉橋(地質景観)
- ㉒見倉の風穴・トチノキ原生林
- ㉓前倉橋(地質景観)
- ㉔蛇淵の滝
- ㉕矢櫃村跡
- ㉖甘酒村跡
- ㉗草津街道
- ㉘苗場神社
- ㉙黒駒太子堂
- ㉚小赤沢のユモトマユミ
- ㉛大瀬の滝
- ㉜苗場山と伊米神社(日本百名山・花の百名山)
- ㉝小松原遺原
- ㉞中津川上流域の温泉群
- ㉟布岩山
- ㊱上ノ原の風穴
- ㊲天池
- ㊳上ノ原(溶結凝灰岩)
- ㊴切明の川原(温泉湧出)
- ㊵切明西方の滝
- ㊶夫婦滝
- ㊷雑魚川の大滝
- ㊸鬼沢火砕流跡
- ㊹魚野川左岸の遊歩道(東電トロッコ跡)
- ㊺魚野川(地質景観)
- ㊻長瀬新田遺跡
- ㊼天代の露頭
- ㊽石器として利用された岩の露頭
- ㊾阿部家(長野県宝)
- ㊿小滝四ツ廻りの運河跡
- 常慶院
- 中条川崩落地形(長野県北部地震)
- 森宮野原駅 最高積雪 7.85mの標柱



清水川原の屏風岩(大嵩) (地図⑱)

3段の紅葉に挟まれた表情の違う溶岩が堆積しています。溶岩には植物が生育せず溶岩上に堆積した土に木々が根付きました。



苗場山と伊米神社(日本百名山・花の百名山) (地図⑳)

苗場山は標高2,145m、約30万年前に形成されました。山頂付近は平坦で広大な高層湿原が広が、標高1,800m～山頂の間には、およそ3,000ヶ所の池塘が点在しています。湿原の形成には、多雪が関わっていると言われます。池塘は田んぼのように見えることから「天の苗地」とも呼ばれ、豊稔を願い参拝登山されてきた歴史があります。夏には、ワタスゲなどの高山植物で飾られます。



鳥甲山 (地図㉑)
苗場山の形成よりも古い鳥甲山は、3回の火山活動期が知られています。白倉山・剃刀岩・鳥甲山・赤倉山・布岩山の連山を含んで鳥甲火山と総称します。



石器として利用された岩の露頭 (地図㉒)
この黒く光る石は、旧石器時代から利用された無斑晶ガラス質安山岩です。現在も爪石として珍重されています。



雑魚川の大滝 (地図㉓)

「おおせん」とよばれ雑魚川上流に位置します。高さ約20m、この地域で一番古い地層(結束層)の中の変質した安山岩を流れくだる滝です。



中条川崩落地形(長野県北部地震) (地図㉔)

日本海にたまった泥層・砂層・火山灰層などの地層が見られ、地滑りの多い地形となっています。この中条川付近は、2011年の長野県北部地震の際にも崩落しました。

※2 池塘とは、高層湿原が形成される過程で、堆積した泥炭層の隙間が雨や雪で自然に満たされた小さな池のように見える箇所。